

■■受験対策ミニ講座 6号 2017■

様々な影響を残して過ぎ去った大型台風 21 号。22 号の行方も気になり、改めて自然の脅威を感じますが、皆様、落ち着いて過ごされているでしょうか。試験準備はこれからが勝負、そろそろ本腰を入れて行きましょう。

【問題 6：(28 回 113 相談援助の理論と方法)】

ソーシャルアクションに関して適切なものを一つ選べ。

- 1 目的には、社会参加の促進は含まれない
- 2 対象には、個人は含まれない
- 3 内容には、ソーシャルアドミニストレーションが含まれる
- 4 展開過程には、学習会や調査などによる問題と要求の明確化が含まれる
- 5 形態には、自らの課題を克服し、要求を実現する組織化は含まれない

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【ソーシャルアクションの輪】

数年前に、人工透析治療中の受講生がいました。営業職として海外で活躍中に持病の腎臓病が悪化し、「人生、終わりだな」と思ったそうです。帰国して人工透析治療が身体障害者手帳の対象で医療費負担がない事、それは当事者たちの運動によって獲得されたものである事を知り、自分もその運動に貢献したいと考えて、社会福祉士の勉強を始めたそうです。

もう一人。長期休暇がとれると開発途上国に出かけてボランティア活動をしているソーシャルワーカーの話。その人も透析が必要な身体となった時には「もうボランティア活動は終わりだな」と思ったそうです。ところが主治医は「今は世界の病院と提携する時代。ニューヨークで透析を受けながら出張をこなしている人がいる。あなたが活動している国で人工透析を受けられるようにすれば、その国の患者たちのためにもなる」と言ったそうです。その人は、世界中どこでも透析を受けられるようにするという新しいミッションに目覚め、活動を再開しました。闘病しながら自分のことだけでなく、他人の事を思い積極的な生き方をする人たちの姿には、頭が下がりますね。

人工透析は腎臓の濾過機能を人工的に補う治療方法で週に 3 回、4 時間をかけた治療が必要とされます。治療直後には独特の倦怠感があるものの治療を受けながら、普通に近い生活を送っている人はたくさんいます。日本では腎移植が普及していないことが患者の選択肢を狭めているとする意見があり、また高齢社会の到来と共に糖尿病性腎症による透析患者が増加するなか、腎臓病患者の団体は腎疾患総合対策の早期確立を求めて毎年、国会請願署名運動を続けています。

今回もソーシャルアクションに繋がる話題でしたが、これを機会に身体障害者手帳や医療費の仕組みなどについても学習しておきましょう。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【問題 6：の正解と解説】

ソーシャルアクションについては、29 回「地域福祉」28 回「相談援助の理論と方法」で出題されています。「現代社会と福祉」や「社会理論と社会システム」とも関わりの深い内容です。

- 1×目的に社会参加の促進が含まれます
- 2×対象に個人が含まれます
- 3×ソーシャルアドミニストレーションは含まれません
- 4○
- 5×形態に組織化は含まれます

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19KDX 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus

発信者： 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会